

第4回北区新庁舎にぎわい創出有識者会議 概要

- 日時 令和6年12月18日(水) 14:00~16:00

- 場所 明豊ファシリティワークス 会議室

- 次第 1 開会

- ・ 前回会議のご意見等に対する対応

- 2 議事

- ・ これまでの調査結果について

- ・ 機能・空間デザインに関する検討状況について

- 3 その他

- ・ 職員ワークショップに向けて

- ・ 次回会議日程について(2月下旬予定)

- 4 閉会

- 会議概要

- 1 開会

- ・ 事務局から、前回会議のご意見等に対する対応について説明があった。

- 2 議事

- 事務局から、これまでの調査結果について説明があった。

○ 委員意見等

- ・ エリアプラットフォームはどのような推進体制か。また、今後、庁舎整備とどのような関係性となるか。協働を考える上では重要である。
- ・ 年度明けに支援業務受注者の選定状況等、進捗状況を共有して欲しい。
- ・ 静けさ、ノイズのレベルのコントロールや住み分けは、にぎわいと騒音対策の両面で大事。日本のイノベーションラウンジは誰も話さず、イノベーションが起きづらい。日本人は話して良いという積極的なサインがなければ話さない。一部図書館で実施されているように話しても良いというルールを明示したり、BGMを流したり、場所ごとの音のレベルを検討していくことが重要だ。
- ・ グループヒアリングでは、多世代、様々なバックグラウンドの方たちからヒアリングをすることができた。外国人ヒアリングは、フルタイム労働者ではない、家族に日本に連れてこられた、日本語が出来ない人たちにアプローチできたことは良かった。このような方々は、各々インフォーマルなグループに属していることが多く、グループに課題が集まってくるため、リーダーに話を聞いて、深掘りすることもよいのではないか。
- ・ 開発の工程についても議論が必要。オガール紫波では基本計画を担当していたが、ロゴデザインが最初に決まり、設計、ランドスケープを並行して検討していた。一般的には建築が先行してまとまることが多いが、本件はロゴが人々の共通言語となって仕組みづくりに役立ち、人集めが始まって、調査やエリアプラットフォームの検討も進んだため、コンセプト的なことについても並行して議論できると良い。建築に先行して、ゾーンごとの名前、グラフィックについても検討を進めてはどうか。区民のお花見広場などが加わるだけで、区民から出てくる意見も変わってくる。グラフィック、コンセプトメイク、建築、意見収集のタイムラインが必要。
- ・ 主体的に動く空間と、機能が定まっている空間の両立が重要。研究室で外国人コミュニティの研究をしているが、ネパール人の中高生の居場所は公園であることが多い。公園は、閉じられた関係の中で暮らしている人たちにとって、唯一外界と接する場としてニーズがある。新庁舎も、公園に出かけていくような感覚で都市と触れられる、匿名化された状態で安心できる場としてニーズがあるのではないか。子育て世代のヒアリング結果を見て、子どもを遊ばせながら仕事や話をする場所が必要ではないかと感じた。都市的な匿名化された場所であること、主体的な行動ができる場所があること、それらが両立できると新しい公共施設のコンセプトになるのではないか。
- ・ 様々な要素を盛り込むと、なんでもありの状態空間化する際に難しくなる。北区ならではの要素として、外国人の多さを踏まえると、匿名化できる場所は重要ではないか。具体的な目的がなくても公園や、渋谷に行くと気が楽になることもある。目的化した場所、静的な場所、その間の場所を、どのように混在させるかが、ひとつの北区らしいテーマになるのではないか。
- ・ わいわいしていることがにぎわいではない、誰もがいられる場所は目指す方向として合致している。
- ・ 騒がしいというよりは、ある種都市的なつながりのような、匿名性や、寛容的なつながりに身を置

くこととしてにぎわいを考えた方が良い。原っぱ、空き地のような、ある種暫定的な空間であり、丘の上に開けた市民の原っぱのようなものが良い。

- ・ パークではなく、ガーデンという言葉が使われていることが興味深い。ガーデンは庭いじりのニュアンスが入っている。パークナイズという言葉も最近使われているが、ガーデンとニュアンスが異なるのではないか。
- ・ 綺麗な芝生は子どもからすると触ることができない。触れる空間は重要である。
- ・ 工期を考えると、ソフト面を3年ほどで決めていかないといけない。大まかなスケジュールを有識者会議の最後の提案として入れたい。
- ・ 残り8年間の、小学生、中学生の関与の仕方も触れられるとよい。どのように子ども達に庁舎整備の動きを見せていくかがポイントになる。

○ 事務局から、機能・空間デザインに関する検討状況について説明があった。

○ 委員意見等

- ・ 入口をもう少し分かりやすい印象にして、部屋数はもう少し減らした方が良い。
- ・ 部屋名を固定するのではなく、電源、機械、キッチンなど、モノに付随して活動が広がるという考え方をしてはどうか。
- ・ ガーデンのコンセプトを、三角公園と飛鳥山公園まで広げ、同じデザインコードを置くのも良いのではないか。
- ・ 要素を減らす方向になると、ゾーニングが重要になってくる。子供の声や、騒がしいゾーンが入り口に近い方が、施設全体が適度ににぎやかになるのではないか。ベストなゾーニングをどのように決めていくか検討が必要。
- ・ エントランスの在り方も今後検討していきたい。
- ・ 昼休みにジョギングできるような、外周路の案も良い。
- ・ 生命の軸というコンセプトで、飛鳥山公園までを入れたエリアで、施設やサイン計画、ジョギングコースなどを一体として考えてはどうか。そういった検討は、エリアプラットフォームが担うのか。

3 その他

- ・ 次回会議日程について

4 閉会